

体と懐にやさしい治療法

がん社会 を診る

中川 恵一

かったとしても、8万7430円ですむ計算です。

さらに、高額療養費として払い戻しを受けた月数が過去1年間に3カ月以上あれば、4カ月目からの限度額は4万4400円に抑えられます。

ただし、差額ベッド料はこの制度の対象外です。例えば東大病院で個室を希望すると、最低でも2万5850円（税込み）かかります。1日10万円あるいは20万円を超える豪華な個室もあります。

仮に1日3万円の個室に入院すると、1カ月に90万円かかりますから、中位所得の会社員だと医療費の自己負担額の10倍もかかることになりま

誤解です。定位放射線治療を含めて、放射線治療の99パーセント以上で健康保険が使えます。

す。ほとんどの手術や副作用を伴う多くの抗がん剤の場合、入院が必要となりますから、「個室問題」に目をつぶることはできません。

かつて水素の原子核を加速して照射する陽子線治療や炭素原子核を使う重粒子線治療（粒子線治療と総称）は全て「先進医療」の扱いでした。先進医療は保険医療より先に進んだ医療という意味ではなく、保険を適用するかどうか「評価中の技術」です。

その点、放射線治療は通院が原則です。急速に進歩しているピンポイント照射（定位放射線治療）では数回の通院ですみます。

粒子線治療を先進医療として受けると、健康保険が使えないため自己負担は300万円にも上りました。しかし、2016年以降は保険医療への移行が進んでいます。この問題は別の機会に論じます。

がんの治療費は高いというイメージがあります。100万円を超える手術や抗がん剤は珍しくありません。しかし、がん治療のほとんどで健康保険が使え、自己負担は3割（70歳以上1〜3割）です。

加えて、保険が適用される治療には、自己負担の上限を定める「高額療養費制度」が使えます。標準報酬月額が28万〜50万円だと、負担額は「8万1000円+（総医療費-26万7千円）×1パーセント」

です。医療費が1000万円か

が多い高額の治療というイメージもあるようですが、全くの新幹線や飛行機で通院する患者もめずらしくありません。放射線治療には保険が利かない高額な治療というイメージもあるようですが、全くの



イラスト 中村 久美